

平成 30 年 6 月吉日

ミニバスケットボールと一般のルールの違いについて

埼玉県ミニバスケットボール連盟

TO委員長 星野 延之

審判委員長 小泉 登

記

日頃より埼玉県及び地区のTO・審判活動についてご理解、ご協力を頂き誠にありがとうございます。

この度、「ミニバスケットボールと一般のルールの違い」ということで、TO委員会・審判委員会で協議し、試合運営における重要な部分をまとめました。背景には、試合中に一般のルールと混同して、ミニバスケットボールのルールとは違う処置が行われていることにあります。

そのようなミスをなくすため、別添の「ミニバスケットボールと一般のルールの違いについて」という案内文をTO席に掲示して、可能であれば試合前に両チームの指導者・TO・審判で共通理解を図り、円滑なゲーム進行を目指していきたいと思います。

ミニバスケットボールに携わっている全ての子どもたちのために、皆様のご理解とご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

以上

ミニバスケットボールと一般のルールの違いについて

ミニバスケットボールと一般のバスケットボールのルールの違いについて、TOに関連があるものです。

項番	項目	内容
1	競技時間	ミニバス 6-(1)-6-(5)-6-(1)-6 第4Qおよび延長時限の残り2分間、フィールド・ゴールの後にゲームクロックは止めない。 ※時限の呼称・・・ミニバス:「クォーター」
2	試合前の合図(ブザー)	3分前と1分前の2回
3	延長戦を行う場合	1回3分の延長時間を必要な回数行い、後半と同じバスケットへ攻撃する。各延長時限の間は2分間とする。 ただし、第1延長時限で勝敗がつかなかった場合は、以降の延長時限で先に2点を先取したチームを勝ちとする。(埼玉ルール)・・・2点差ではない。
4	出場メンバーの登録	試合開始のおよそ5分前程度にスタート選手を登録する。コーチサインは欄が無いので不要。 クォーター開始前にTO席前で番号の確認を行う。(副審とTOとで行う。)
5	出場するメンバー数	第3Qまでに10人以上のプレイヤーが1Q以上、2Qを越えない時間だけは出場しなければならない。
6	交代	第1クォーターから第3クォーターまでの間は、クォーター・タイムとハーフ・タイムのときにのみ交代することができる。第4クォーターと延長時限にタイム・アウトがあったときには、どちらのチームもプレイヤーを交代させることができる。 ※ただし、フリースローの前にタイム・アウトがあったとき、特例として最後のフリースローが成功した場合のみ、シューターの交代を認める。フリースロー・シューターを交代させたいときは、フリースローが行われる前にテーブル・オフィシャルズにコーチは、はっきりとその旨を申し出ておく。
7	負傷時の交代	選手が負傷してしまった場合は選手の安全を第一優先とする。 ケガによる交代はどのクォーターでも可能。ただし退くプレイヤーはそのクォーターに出場したことになる。(⇒第1～3Qクォーターの連続出場に注意!) このとき、ミニバスにおいては出場時限、交代の制限があるので、負傷の度合いによっては即座に交代とせず、選手およびチーム指導者とコミュニケーションをとり、ゲームの進行に大きな影響を与えない時間の範囲で必要な手当て(止血、テーピング等)を行った後、プレーの続行を認める。
8	タイム・アウト	各ハーフに1回ずつ。延長時限は各延長時限に1回ずつ
9	タイム・アウトが認められる時期	タイム・アウトはコーチがあらかじめスコアラーに申し出ておき、ファウル、ヴァイオレーション、ヘルド・ボールが起こったときか、その他の理由で審判が笛を鳴らして時計を止めたときか、相手チームのフィールド・ゴールが成功したときに認められる。 ↳ボールがシューターの手から離れる前に請求しなければならない なお、以下の時期におけるタイム・アウトは認められない。 ・フリースローの1投目と2投目の間、最後のフリースロー成功後からスローインまでの間。 ・フリースローに続くセットで与えられたスローインの前。
10	ショットクロックの計測の再開	コート内のプレイヤーがボールを保持したとき。
11	チーム・ファウル5個目からのフリースロー	オフェンス側のファウルもフリースローを与える。
12	フリースローの与え方を間違えてしまった場合(処置の訂正)	同じ競技時限(クォーターまたは延長時限)の間および次の競技時限が始まる前(インターバル中も含む)までならば訂正することができる。